

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：37117

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K18494

研究課題名（和文）クイア仏教学の構築

研究課題名（英文）Construction of Queer Buddhist Studies

研究代表者

宇治 和貴（UJI, KAZUTAKA）

筑紫女学園大学・人間科学部・准教授

研究者番号：80613413

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000 円

研究成果の概要（和文）：LGBTと呼ばれるセクシュアルマイノリティの人々を、仏教における救いの対象としてどのように位置づけるかといった問題意識から出発した研究だった。しかし研究途中に、クイアスタディーズで指摘された「寛容」という差別を知り、当事者を救いの対象として位置づけようとする意識そのものが差別的であるという結論に至った。そうした反省に立ったうえで、クイアスタディーズが論理構築と実践的運動の二側面をもって展開されてきたことを踏まえ、平等を原理として教学が構築されている現実の仏教教団において、なぜ差別があるのかといった具体的な問題を取り上げる必要があるといった、クイア仏教学における課題を明らかにすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

仏教研究の領域にクイアセオリーを援用する研究は、本研究が日本では最初の試みであった。従って「クイア仏教学」という名称も、本研究で初めて使用したものであり、仏教学研究分野における新たな領域を開拓できた。ジェンダー研究分野においても積極的とはいえない仏教学に関する研究分野において、クイア研究を用いたことは画期的な発想だったと考えている。

また、既存の仏教教団内にもカミングアウトできていないLGBT当事者は存在しているはずである。その理由は、教団内にある差別意識だと考えられる。そうした声を出すことができていない人々が、自らを肯定する論理の端緒を開拓できたことは社会的にも大きな意義があると考えている。

研究成果の概要（英文）：This research started from an awareness of the problem of how to position LGBT, sexual minority people, as objects of salvation in Buddhism. However, in the middle of my research, I learned about the discrimination called "tolerance" that was pointed out in queer studies, and came to the conclusion that the very attitude of trying to position people with disabilities as objects of salvation is discriminatory. Based on this reflection, and based on the fact that queer studies have been developed with two aspects, logical construction and practical movement, why is there discrimination in actual Buddhist denominations where co-education is built on the principle of equality? I was able to clarify the issues in queer Buddhist studies, such as the need to address specific issues such as

研究分野：仏教思想史

キーワード：クイア仏教学 クイアスタディーズ LGBTQ 仏教 真宗 親鸞 セクシュアルマイノリティ ジェンダ

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

研究担当者はこれまで、歴史のなかにおける仏教信仰にもとづいた実践のあり方を研究し、仏教・真宗における実践論の構築に努めてきた。そのようななか、日本において LGBT という言葉が認知されるようになった。日本における LGBT 当事者の割合が総人口の 7~8 パーセント存在するという数字と共に、当事者が被抑圧的状况下にあると報告されている。

以前より、仏教における平等観に関心を持ち、差別解消に向けた実践理論の構築の必要性を關していたこともあり、マイノリティとされる人々を仏教教学のなかで、救済の対象者として位置づける作業「クィア仏教学の構築」が必要であることを痛感したことから「クィア仏教学の構築」への取り組みを開始し、2016 年に「仏教からのマイノリティスタディへの視座・序論」を執筆した。

2. 研究の目的

本研究では、仏教研究に「クィア」的視点を導入することを目指した。仏教における慈悲の実践を具体化しようとするとき、その実践は弱者とされる存在といかなる関係性を志向するかといった視点を含んだ、弱者の立場に立った(立とうとする)実践理論としての「クィア仏教学の構築」が必要だと感じたことがこの研究を構想した理由であった。「クィア」という言葉は当初、男性同性愛者やトランス女性に対するかなり暴力的な侮蔑語として英語圏で用いられていた。この否定的な侮蔑語を、あえて当事者自らが呼称として用いて、その内実やイメージを定義する力を当事者に取り戻そうとする思考形態を「クィア的思考」とされている。

すでにキリスト教神学においては、「クィア」な視点を通して福音の本質を鮮明に打ち出す作業が「クィア神学」として行われている。こうしたクィア神学に刺激され本研究においては、仏教研究のなかに「クィア」的思考・理論を用いることで、差別的状況下にあるセクシュアルマイノリティ当事者を仏教教義のなかで、論理的に救済の対象として位置づける、クィア仏教学の構築を目的として研究を開始した。

3. 研究の方法

本研究では研究目的を達成するために、主に 3 つの方法をとった。

- 、LGBT や「クィア理論」に関する研究会やイベントに出席して理解を深める。
- 、研究協力者や専門家と共同の研究会を開催して、クィア理論への理解を深める。
- 、仏教での同性婚に関して、先進的事例のあるアメリカ仏教会に赴き経緯と議論を調べる。

4. 研究成果

研究成果については、先に示した研究方法に従って内容を示した後に、概要を記す。

- 、LGBT や「クィア理論」に関する研究会やイベントに出席して理解を深める。

東京・京都・名古屋を中心として、各地で開催されている LGBT に関するシンポジウム・研究会などのイベントに参加した。クィア研究に関しては未知の領域であり、情報収集の仕方もわからない状態からの出発だったが、研究協力者の赤枝香奈子教授からの紹介などにより、多くのイベント情報を知ることができた。LGBT に関する問題は、セクシュアリティだけにとどまるものではなく、ジェンダーやフェミニズムなどの議論を踏まえたうえで展開されなければならないことや、世界的な研究動向にも注意を払いながら進めるべきものであることが確認された。

- 、研究協力者や専門家と共同の研究会を開催して、クィア理論への理解を深めた。

2020 年 3 月に、広島修道大学・河口和也教授をはじめとして、龍谷大学・那須英勝教授、大

谷大学・福島栄寿教授、本願寺資料研究所・近藤俊太郎研究員、龍谷大学・北畠浄光講師、大正大学・工藤量導講師、同志社大学・朝香知己講師、中央仏教学院・岩元千依講師などとクィア仏教学研究会を開催した。これまで仏教研究者のなかでクィア理論を取り入れた研究がなかったので、クィア神学の研究者、朝香知己氏に報告をしてもらうことから研究会を開始した。その後、日本におけるクィア理論のパイオニアである河口和也教授に、クィア理論の歴史と課題について報告していただいた。また、同時に宇治が自らの研究状況を報告し、クィア仏教学確立のための議論を展開した。

全国から仏教学研究者のなかでクィア理論に関心のある研究者が集まって研究会を開催したことは、日本の仏教研究において極めて重要なできごとだと認識している。宗派を超えて、異分野の研究者をブリッジしての研究会の存在は、今後さらに多くの宗派の研究者と連携する基盤となることから、研究会の存在そのものが重要な研究成果だといえる。

、仏教での同性婚に関して、先進的事例のあるアメリカ仏教会に赴いて経緯と議論を調査する。

浄土真宗本願寺派の北米教団は 1970 年代より、同性婚を承認し儀礼を行っている。この同性婚儀礼執行に至るまでには、様々な議論が重ねられたという。その議論の内容を調査するため、2018 年、2019 年にサンフランシスコ仏教会に赴き、の LGBT コミュニティへの取り組みについて調査した。2019 年には、LA の仏教会も訪問し、LGBT コミュニティとどのように関わっているかを調査した。その結果、第 2 次世界大戦後、在アメリカ日系人はキャンプに収容されており、マイノリティであるが故の苦痛をその身体的経験をもって知っている。その結果、同じアメリカ社会においてマイノリティとして生きる LGBT の人々への共感が醸成され、サポートイブな活動を展開してきたことが分かった。

2019 年には、UC バークレーのジュディス・バトラー教授から特別講義をいただいたことは大きな収穫であった。この成果は日本宗教学学会学術大会や武蔵野大学仏教文化研究所で、それぞれ「仏教思想とクィア理論の類似性について」「クィア仏教学が課題とするもの」として発表した。バトラー教授はクィア理論におけるパフォーマティビティという概念と縁起思想の類似性について、理論の類似性の指摘とともに、その理論を現在の問題解決のために活用することが大事であり、その問題と方法について議論すべきだと指摘された。

2020 年 2 月には世界最大級の LGBT パレードであるマルディグラの時期に合わせて、オーストラリアシドニーの仏教会を訪問し、シドニー在住の仏教徒と LGBT 状況と同時に、仏教教団のコミュニティへのかかわり方などについて調査した。シドニー在住の LGBT 当事者で組織する仏教集団 Rainbodhi に参加し、シドニーの LGBT 仏教者コミュニティとの繋がりを形成した。その中で、Rainbodhi 参加者が関している豪州における仏教会の問題に関するアンケート調査結果を入手した。そこでは、他の宗教者よりも仏教者の方が、LGBT 当事者への差別意識が強いと感じているとの答えが 6 割ほどであり、平等を説く仏教教義と現実との乖離を問題だと感じている人が多いことを知った。この問題は、豪州に止まらず、世界中でクィア仏教学の研究を展開するにあたり、必ず押さえておくべき問題であることを確認した。

< 成果の概要 >

本研究期間中に、クィア仏教学の基礎理論となる『親鸞の信と実践』（法蔵館 2021）を出版できたことは大きな成果であった。これまで積極的に研究されてこなかった、仏教・真宗と実践の関係性を検証するにあたって、歴史という方法を用いることで、仏教が慈悲実践主体の確立を要請する宗教であるとの理論を提示することができた。

本研究において、クィア仏教学とはクィア理論に対する仏教学的応答であると定義づけた。それは、異性愛を前提とし、セクシュアルマイノリティ当事者をクィアとして位置づける差別的な価値観に疑問を抱かない仏教者や仏教教団を問題化し、それを支える教団の教理や教学が、歴史状況における価値観の制約下で人為的に成立したものと知見から問い直し再構築する、実践的な仏教学として展開していくべきものである。さらに、クィア理論で指摘された様々な課題を、仏教教学や教団のなかにおける実践的な問題に落とし込んで捉えなおしていくという視点が重要であることも指摘した。

この指摘は、研究担当者自身が当初に抱いた問題関心そのものが、差別的であるとの自省にもとづくものであった。当初、「セクシュアルマイノリティ当事者をいかに救済対象として位置づけるか」を課題として出発した研究であったが、こうしたマイノリティ当事者を「救済する対象」とみなす視点そのものが、研究者自身の抱く差別意識に起因するものであると研究を通して発見したのである。

クィア研究では論理構造の分析といった学術的な側面と、現状の課題解決に向けた取り組みという実践的な側面を同時に遂行することが研究者に求められる。また、仏教とは常に内省を基礎とした、慈悲の実践を求める宗教である。よって、仏教学研究にクィア理論を取り入れて思考した結果、現状の差別事象解決への取り組みという実践的な関心とともに、常に現状での差別を作り出す研究者自身の差別意識への内省が求められたのである。

以上のような関心を基礎として、クィア仏教学の構築を進めるなかで「仏教は無分別を説き差別を超越した宗教であるから、教えとしては解決している」という意見や「仏教とは超越概念なので、現実の問題にはかかわらない」という意見をしばしば耳にした。こうした意見に対して「教えでは解決している問題であるにもかかわらず、教団内に具体的な差別現象が存在し続けているのはなぜか」「具体的に差別が解消できていないのであれば、差別の解消にむけて仏教を再構築する必要があるのではないか」といった疑問がクィア理論からは提示される。それは、先にも述べたが、高尚な空理に安住せず現実的な課題を前提とし、その解決のための論理の再構築を模索する学問がクィア理論だからである。

こうしたクィアな視点から現実の仏教教団内における課題を考えた結果、理論上は一切衆生の救済として全ての人が救済の対象とされていながら、性的マイノリティ当事者が苛烈な差別や偏見に喘いでいる現状を知った。そうした現状は、平等を説きながら、目の前の差別を差別と喝破することができない、実践性を伴わない仏教教学の問題であることも解った。よって「クィア仏教学」が解決すべき課題が、

- 1、現実の仏教教団に内在する性的マイノリティ差別を解消する
- 2、具体的差別を差別と認識させない仏教教学を差別解消のための教学に再構築する

の2点であることを日本宗教学会で発表した。これらの課題解決には、今回の研究において構築したクィア仏教学という概念を基礎として、仏教・クィア・ジェンダーなどの学際的な研究を行い、仏教学者が宗派を超えて真に平等を求める主体を成立させるためのクィア仏教学を、早急に確立し普及させる取り組みが必要だということが明らかになった。

特に「寛容という差別」については、教化者の立場をとりがちな仏教者としては、意識的に反省すべき課題であることから、「施しという差別」という概念が必要であることを指摘した。日本社会におけるマジョリティである仏教者はマイノリティ当事者に対して、善意から施しを実践する可能性があるが、その構図が施す側と施される側に二分化され、上位の者が下位のものに施すという構図であった場合は施しという差別が成立することになる。よって、仏教者がマイノリティの問題に取り組む場合は、自らの差別意識を強く意識しながら、それでも悲しみや悩みを

生み出す状況を共に転じ、差別がなくなる状況が実現するような取り組みが何かを考える作業が必要となる。こうした理由により、仏教者であることの必然として、差別解消のために主体的にかかわることを柱とした実践的教学の構築が課題となる。その解決の学問としてクィア仏教学が必要であることも指摘した。

更に、宗派を超えた研究活動や公開講座の開催によって、仏教教団全体の問題としてクィア仏教学的視点を展開させる取り組みにも挑戦した。こうした研究を継続することで、どこまでも弱者の立場に立とうとするクィア仏教学を構築することで、現状に苦しむ多くのマイノリティ当事者が救われる可能性を生み出すことも指摘した。

この他にも、日本の仏教教団における同性同士による婚姻儀礼執行についての意識の問題や、ジェンダーギャップを解消するための教学構築という課題などに取り組み、現代社会を生きる人に求められる宗教とならなければならないことなどを指摘した。

今後、クィア仏教学研究がさらに展開することで、宗教間対話の窓口となり、内に籠りがちな仏教研究において、現実社会における実践を軸に据えた仏教に関する新たな研究分野を開拓できると確信している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 宇治和貴	4. 巻 93別冊
2. 論文標題 クィア思想と仏教思想の関連性について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宗教研究	6. 最初と最後の頁 257~258
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宇治和貴	4. 巻 2019報告書
2. 論文標題 「クィア仏教学」の構築に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 龍谷大学アジア仏教文化研究センター 2019年度研究報告書	6. 最初と最後の頁 118~126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宇治和貴・赤枝香奈子・浜田登美子・安恒万紀	4. 巻 31
2. 論文標題 筑紫女学園大学におけるマイノリティの支援と包摂の在り方について（その2）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 筑紫女学園大学人間文化研究所年報	6. 最初と最後の頁 79~105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宇治和貴	4. 巻 7
2. 論文標題 シドニーにおける仏教とLGBTコミュニティについてーシドニー視察・調査報告ー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 筑紫女学園大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 35-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 宇治和貴	4．巻 94別冊
2．論文標題 クア仏教学の射程	5．発行年 2021年
3．雑誌名 宗教研究	6．最初と最後の頁 199-200
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 宇治和貴	4．巻 5
2．論文標題 親鸞思想からの「マイノリティ」差別批判	5．発行年 2019年
3．雑誌名 筑紫女学園大学教育実践研究	6．最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 安恒万紀・赤枝香奈子・浜田登美子・宇治和貴	4．巻 30
2．論文標題 筑紫女学園大学におけるマイノリティの包摂と支援のあり方について（その1）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 筑紫女学園大学人間文化研究所年報	6．最初と最後の頁 189-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1．著者名 宇治和貴	4．巻 第5号
2．論文標題 親鸞思想からの「マイノリティ差別」批判	5．発行年 2019年
3．雑誌名 筑紫女学園大学教育実践研究	6．最初と最後の頁 25-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇治和貴	4. 巻 第86号
2. 論文標題 仏教はセクシュアルマイノリティ差別とどう向き合うか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本佛教学会年報	6. 最初と最後の頁 115 - 137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 宇治和貴
2. 発表標題 クィア仏教学の必要性 クィア仏教学における真宗学での課題
3. 学会等名 龍谷大学人間科学宗教オープンリサーチ研究センター特別講義（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇治和貴
2. 発表標題 仏教はセクシュアリティ差別とどう向き合うか
3. 学会等名 日本佛教学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇治和貴
2. 発表標題 熊本地震における僧侶の活動ー住職によるグリーフケアの可能性ー
3. 学会等名 龍谷大学人間科学宗教オープンリサーチセンター特別講義（招待講演）
4. 発表年 2021年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 親鸞の信と実践の構造について－自然法爾と廻向を中心として－
3．学会等名 龍谷大学真宗実践論研究会（招待講演）
4．発表年 2021年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 クィア仏教学の射程
3．学会等名 日本宗教学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 真宗実践論とその具体的展開について
3．学会等名 真宗学研究学会
4．発表年 2019年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 クィア研究と仏教思想の関連性について
3．学会等名 日本宗教学会学術大会
4．発表年 2019年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 クイア仏教学が課題とするもの
3．学会等名 武蔵野大学仏教文化研究所例会
4．発表年 2019年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 仏教はセクシュアル・マイノリティ差別とどう向き合うかークイア仏教学の必要性についてー
3．学会等名 日本仏教学会
4．発表年 2020年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 クイア仏教学の構築に向けて
3．学会等名 龍谷大学アジア仏教文化研究センター研究会
4．発表年 2018年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 クイア仏教学の構築のために
3．学会等名 歴史・宗教研究会
4．発表年 2018年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 筑紫女学園大学におけるダイバーシティ推進に向けた取り組み
3．学会等名 LGBTA支援大学教員ネットワーク
4．発表年 2018年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 筑紫女学園大学における「アライ養成講座」の構成について
3．学会等名 大学教職員LGBTANETWORKING
4．発表年 2023年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 筑紫女学園大学における講義「マイノリティを生きる」での取り組みについて
3．学会等名 大学教職員LGBTANETWORKING
4．発表年 2022年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 In search of the Rainbow-coloured Dharma: Queerness and Buddhism への質問
3．学会等名 龍谷大学 世界仏教文化研究センター 国際部門（国際学会）
4．発表年 2023年

1．発表者名 宇治和貴
2．発表標題 1970～80年代アメリカ仏教会における同性婚とHIVパニックへの対応の背景について
3．学会等名 龍谷大学 世界仏教文化研究センター 国際部門（国際学会）
4．発表年 2022年

〔図書〕 計3件

1．著者名 宇治 和貴	4．発行年 2021年
2．出版社 法蔵館	5．総ページ数 320
3．書名 親鸞の信と実践	

1．著者名 斎藤信行，北畠浄光，宇治和貴，近藤俊太郎，岸本伸一，井之上大輔，伊東正悟	4．発行年 2021年
2．出版社 永田文昌堂	5．総ページ数 332
3．書名 歴史のなかの仏教	

1．著者名 楠 淳澄、中西 直樹、嵩 満也	4．発行年 2020年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 272
3．書名 国際社会と日本仏教	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------